

但馬管内の景気動向調査

平成26年

10月～12月期



但馬信用金庫

－ 但馬管内景気動向調査結果 －

(2014年10～12月期実績・2015年1～3月期見通し)

調査の概要

1. 回答数：272（前回：244）

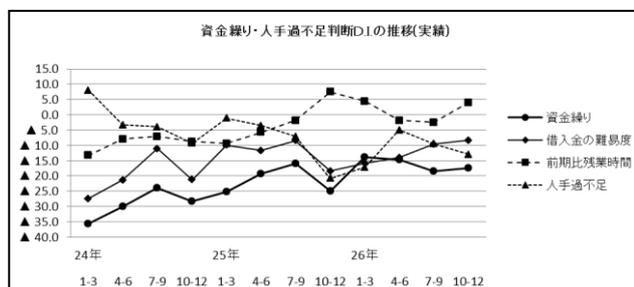
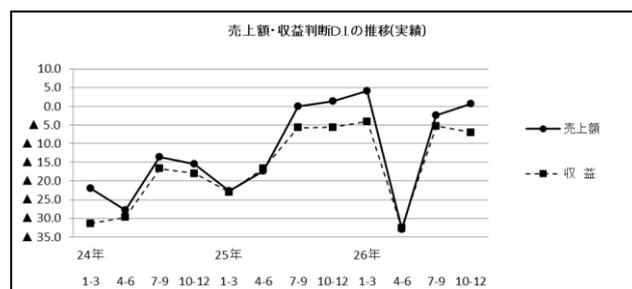
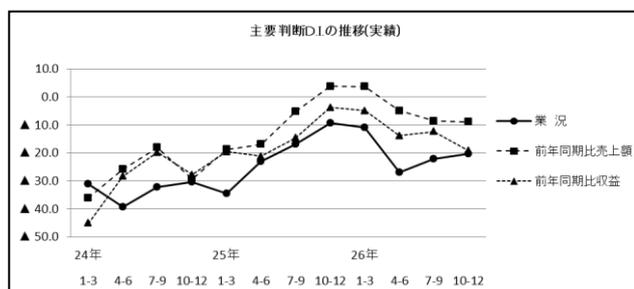
2. 分析方法：ディフュージョン・インデックス（D.I.）

景気の各項目事項について、良いと感じている企業の割合から悪いと感じている企業の割合を引いたもの。

概況

- ・前回（7～9月）調査時の見通しにおいて、現状対比での業況改善となったのは製造業、建設業、サービス業で、卸売業、小売業、不動産業においては悪化した。
- ・売上については前四半期対比で改善したが建設業と小売業の影響によるもの。収益については製造業、不動産業で改善、小売業は横ばい、建設業、卸売業サービス業で悪化となり、全体としては悪化した。
- ・翌四半期の業況については卸売業、小売業において横ばいを見込む以外は悪化する見通しとなっている。

	2014年10～12月期実績	前四半期比	2015年1～3月期予想
業況D.I.	△ 20.3	1.9	△ 26.3
前年同期比売上額D.I.	△ 8.9	△ 0.3	-
前年同期比収益D.I.	△ 19.3	△ 7.0	-
売上額D.I.	0.7	3.2	△ 8.8
収益D.I.	△ 7.0	△ 1.7	△ 16.6
資金繰りD.I.	△ 17.3	1.2	△ 18.1
借入金の難易度D.I.	△ 8.3	1.4	-
前期比残業時間D.I.	4.0	6.5	△ 0.7
人手過不足D.I.	△ 12.9	△ 3.5	△ 11.9



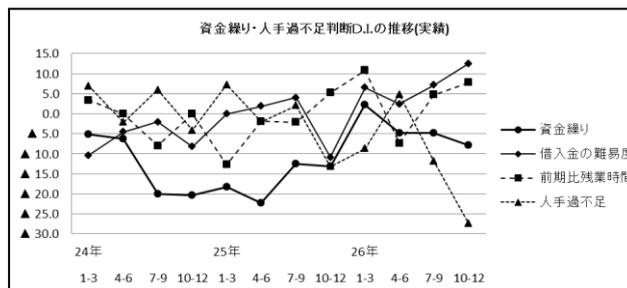
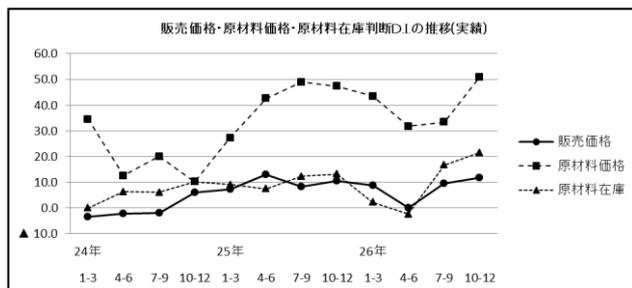
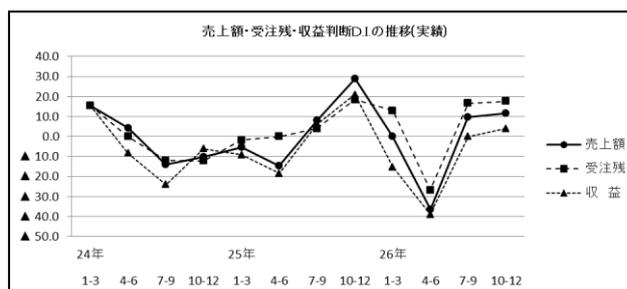
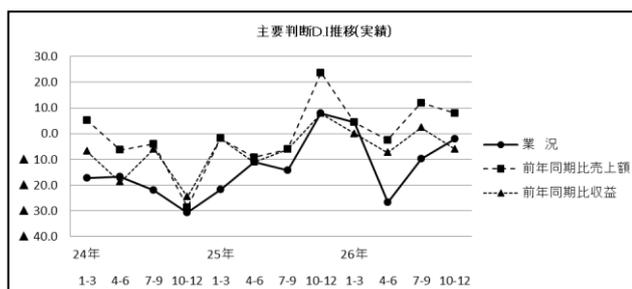
製造業 回答企業数：51（前回：42）

・売上額、受注残、収益が改善し、業況も2期連続で改善。翌四半期の業況は悪化の見通し。

今期の業況D. I. は△2.0と前四半期比7.8ポイント改善した。また、売上額D. I. や受注残D. I.、収益D. I. も小幅ながら上昇し2期連続の改善となった。

前年同期比売上額D. I. は8.0とプラスであるが、同収益D. I. については△6.0とマイナス。原材料価格が販売価格と比べ大きく増加し収益を圧迫している。翌四半期は売上額、受注残、収益の減少から業況の悪化が予想されている。

	2014年10～12月期実績	前四半期比	2015年1～3月期予想
業況D. I.	△ 2.0	7.8	△ 6.0
前年同期比売上額D. I.	8.0	△ 3.9	-
前年同期比収益D. I.	△ 6.0	△ 8.4	-
売上額D. I.	11.8	2.0	△ 2.0
受注残D. I.	17.6	1.0	△ 9.8
収益D. I.	3.9	3.9	△ 9.8
販売価格D. I.	11.8	2.2	9.8
原材料価格D. I.	51.0	17.6	33.3
原材料在庫D. I.	21.6	4.9	2.0
資金繰りD. I.	△ 7.8	△ 3.1	△ 7.8
借入金の難易度D. I.	12.5	5.4	-
前期比残業時間D. I.	7.8	3.1	△ 2.0
人手過不足D. I.	△ 27.5	△ 15.5	△ 19.6
現在の設備D. I.	△ 15.7	6.3	-
設備投資D. I.	29.4	0.8	-
来期設備投資D. I.	29.4	0.8	-



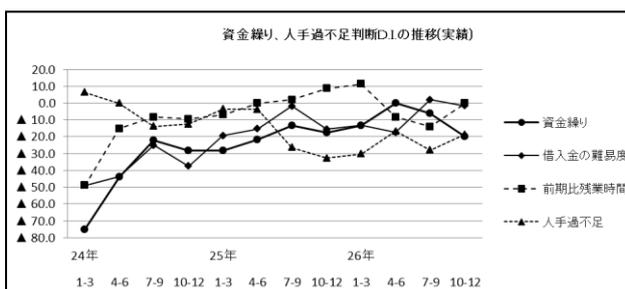
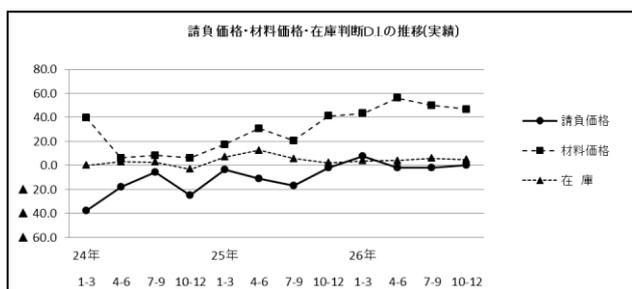
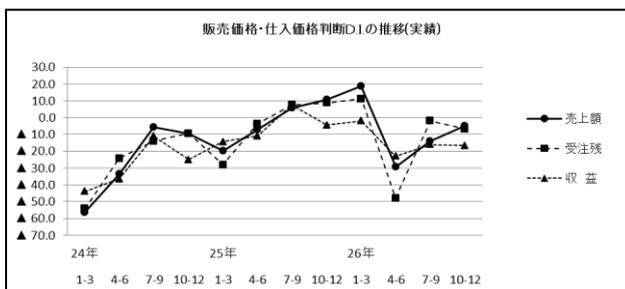
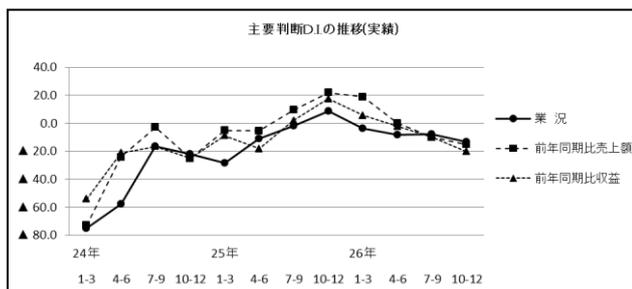
建設業 回答企業数：60（前回：50）

・業況は4期連続の悪化。翌四半期の業況についてもさらに悪化の見通し。

業況D. I.は△13.3と前四半期比5.3ポイント悪化し、4期連続の悪化となった。前年同期比売上額D. I.および同収益D. I.については、それぞれ△15.3・△20.3と3期連続の悪化。

売上額D. I.、施行高D. I. 請負価格D. Iは前四半期比で改善となったが、受注残D. I.、収益D. I.、材料価格D. Iは前四半期比で悪化した。翌四半期については、売上、受注残、請負価格、収益の悪化が見込まれており、業況悪化の見通し。上記の予想から、人手不足感は解消に向かうが資金繰りの悪化が見込まれている。

	2014年10～12月期実績	前四半期比	2015年1～3月期予想
業況D. I.	△ 13.3	△ 5.3	△ 30.0
前年同期比売上額D. I.	△ 15.3	△ 5.3	-
前年同期比収益D. I.	△ 20.3	△ 10.3	-
売上額D. I.	△ 5.0	9.0	△ 16.7
受注残D. I.	△ 6.7	△ 4.7	△ 21.7
施工高D. I.	△ 5.0	1.0	△ 11.7
収益D. I.	△ 16.7	△ 0.7	△ 31.7
請負価格D. I.	0.0	2.0	△ 3.3
材料価格D. I.	46.7	△ 3.3	36.7
在庫D. I.	5.0	△ 1.0	1.7
資金繰りD. I.	△ 20.0	△ 14.0	△ 28.3
借入金の難易度D. I.	△ 1.7	△ 3.7	-
前期比残業時間D. I.	0.0	14.0	△ 3.3
人手過不足D. I.	△ 18.6	9.4	△ 13.6
現在の設備D. I.	△ 16.7	△ 0.7	-
設備投資D. I.	40.0	0.0	-
来期設備投資D. I.	31.7	1.7	-



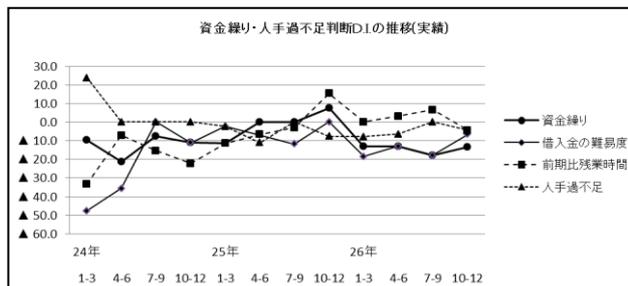
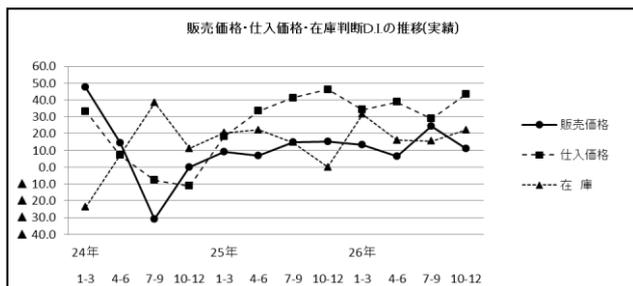
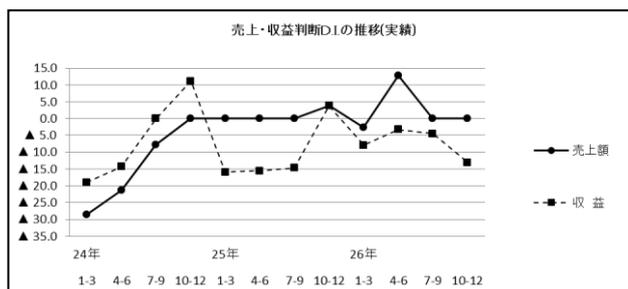
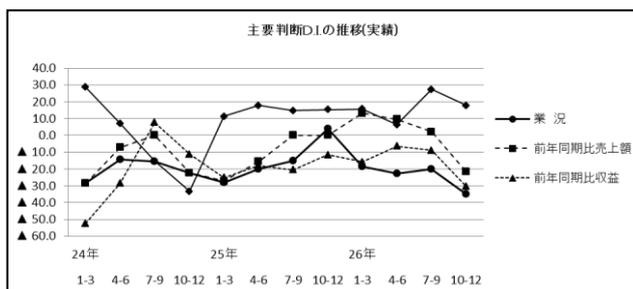
卸売業 回答企業数：46（前回：45）

- ・販売価格に対し仕入価格の高止まりが続き、業況は悪化。翌四半期も業況は改善せず、悪化の見通し。

今期の業況D. I.は△34.8 と前四半期比 14.8 ポイントの悪化。仕入価格D. I.の前四半期比 14.6 ポイント上昇に対し販売価格D. I.は 13.6 ポイント下降し、収益D. I.は 8.6 ポイントの悪化となった。販売価格に対して仕入価格の高止まりが続いている。

翌四半期についても販売価格に対して仕入価格の高止まりが続く見通しであり、売上額、収益ともに悪化が予想され厳しい業況が見込まれている。

	2014年10～12月期実績	前四半期比	2015年1～3月期予想
業況D. I.	△ 34.8	△ 14.8	△ 41.3
前年同期比売上額D. I.	△ 21.7	△ 24.0	-
前年同期比収益D. I.	△ 30.4	△ 21.5	-
前年同期比販売価格D. I.	17.8	△ 9.5	-
売上額D. I.	0.0	0.0	△ 8.7
収益D. I.	△ 13.0	△ 8.6	△ 10.9
販売価格D. I.	10.9	△ 13.6	8.7
仕入価格D. I.	43.5	14.6	35.6
在庫D. I.	22.2	6.7	24.4
資金繰りD. I.	△ 13.3	4.4	△ 6.7
借入金の難易度D. I.	△ 6.7	11.1	-
前期比残業時間D. I.	△ 4.3	△ 11.0	0.0
人手過不足D. I.	△ 4.3	△ 4.3	△ 6.5
現在の設備D. I.	△ 4.3	0.2	-
設備投資D. I.	23.9	3.9	-
来期設備投資D. I.	19.6	1.8	-



小売業 回答企業数：41（前回：41）

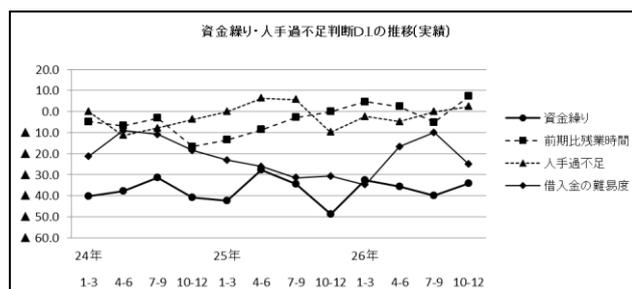
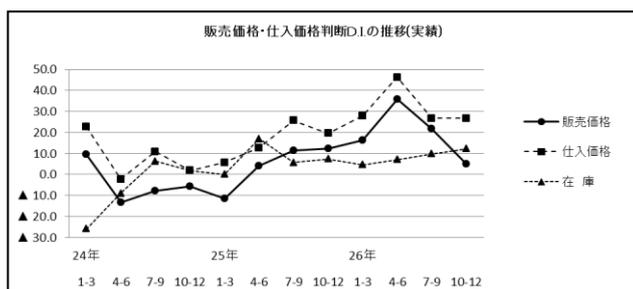
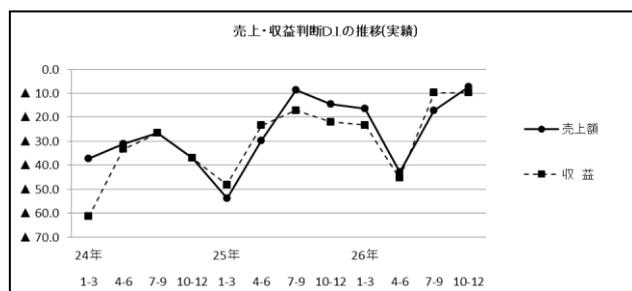
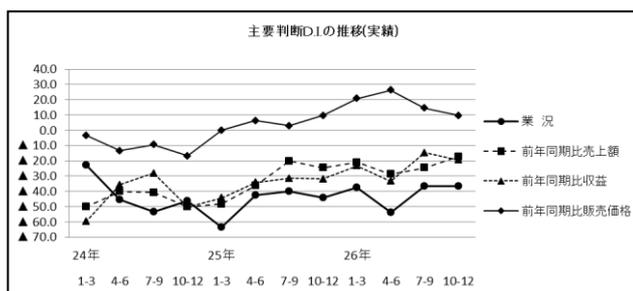
・販売価格の上昇が前回（7～9月）調査時の見通しには届かず、業況は横ばい。翌四半期については、仕入価格の上昇は和らぐが、売上減少により収益悪化の見通し。

業況D. I. は前回調査時と同じく、△36.6ポイントとなった。

売上額D. I. は2期連続で改善したが、仕入価格の横ばいに対し、販売価格の低下が大きく収益の増加につながっていない。

翌四半期の見通しをみると、仕入価格の低下幅が販売価格の低下幅より大きくなるものの、売上額が減少し、収益は悪化する見込み。

	2014年10～12月期実績	前四半期比	2015年1～3月期予想
業況D. I.	△ 36.6	0.0	△ 36.6
前年同期比売上額D. I.	△ 17.1	7.3	-
前年同期比収益D. I.	△ 19.5	△ 4.9	-
前年同期比販売価格D. I.	9.8	△ 4.9	-
売上額D. I.	△ 7.3	9.8	△ 12.2
収益D. I.	△ 9.8	0.0	△ 20.0
販売価格D. I.	4.9	△ 17.1	2.5
仕入価格D. I.	26.8	0.0	17.5
在庫D. I.	12.2	2.4	10.0
資金繰りD. I.	△ 34.1	5.9	△ 32.5
借入金の難易度D. I.	△ 25.0	△ 15.0	-
前期比残業時間D. I.	7.3	12.3	△ 2.5
人手過不足D. I.	2.4	2.4	2.5
現在の設備D. I.	△ 7.5	0.0	-
設備投資D. I.	14.6	△ 7.3	-
来期設備投資D. I.	14.6	△ 2.4	-



不動産業 回答企業数：17（前回：11）

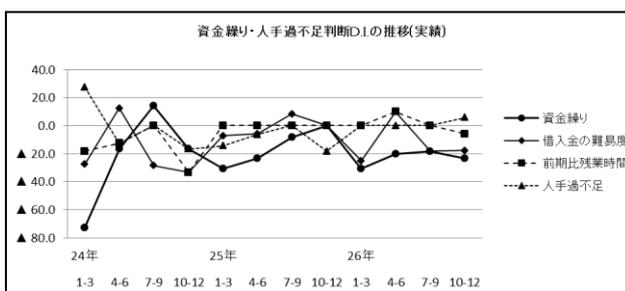
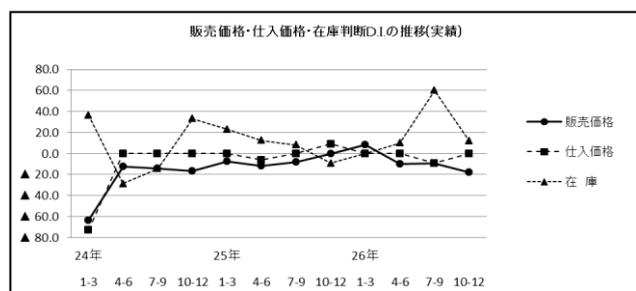
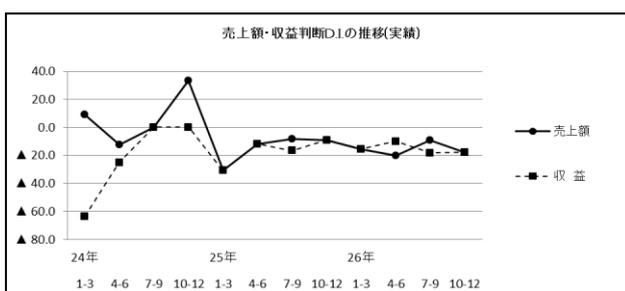
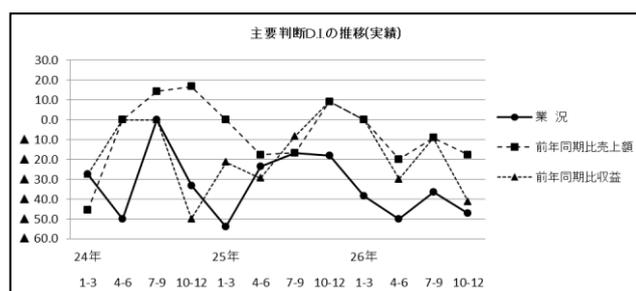
- ・業況は前回（7～9月）調査時の見通しに反し悪化。前年同期比売上額や収益も悪化。翌四半期の業況は横ばいの見通し。

今期の業況D. I. は△47.1 と前四半期比 10.7 ポイントの悪化となった。また、前年同期比売上額D. I. △17.6、同収益D. I. △41.2 と前年同期比においても低い水準にある。

なお、仕入価格が上昇（仕入価格D. I. が前四半期比 9.1 ポイントの上昇）する一方、販売価格は悪化（販売価格D. I. が前四半期比 8.6 ポイントの下降）しており、そうした状況下で在庫を大幅に減らしている様子が伺える。

翌四半期は売上の若干の増加が見込まれているが、販売価格の低下も予想されており、業況は横ばいの見通し。

	2014年10～12月期実績	前四半期比	2015年1～3月期予想
業況D. I.	△ 47.1	△ 10.7	△ 47.1
前年同期比売上額D. I.	△ 17.6	△ 8.6	-
前年同期比収益D. I.	△ 41.2	△ 32.1	-
売上額D. I.	△ 17.6	△ 8.6	△ 11.8
収益D. I.	△ 17.6	0.5	△ 17.6
販売価格D. I.	△ 17.6	△ 8.6	△ 23.5
仕入価格D. I.	0.0	9.1	△ 6.3
在庫D. I.	11.8	△ 48.2	11.8
資金繰りD. I.	△ 23.5	△ 5.3	△ 35.3
借入金の難易度D. I.	△ 17.6	0.5	-
前期比残業時間D. I.	△ 5.9	△ 5.9	0.0
人手過不足D. I.	5.9	5.9	△ 11.8



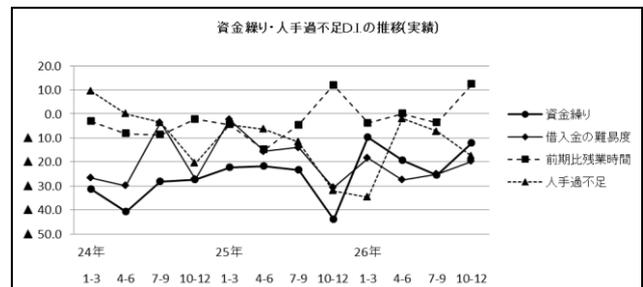
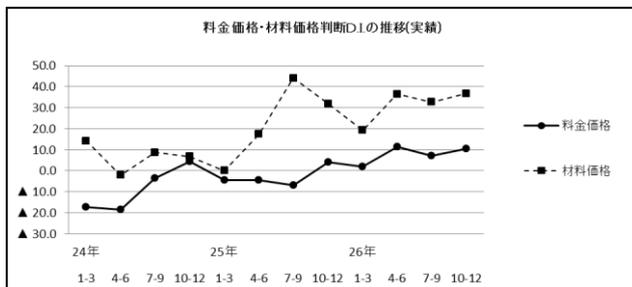
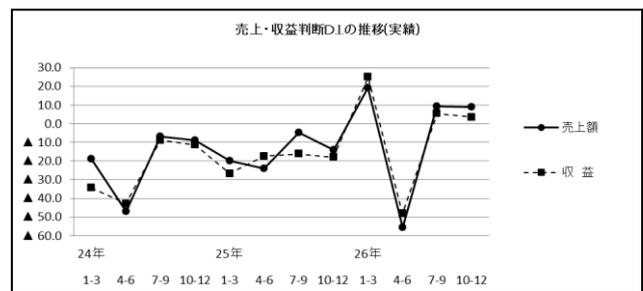
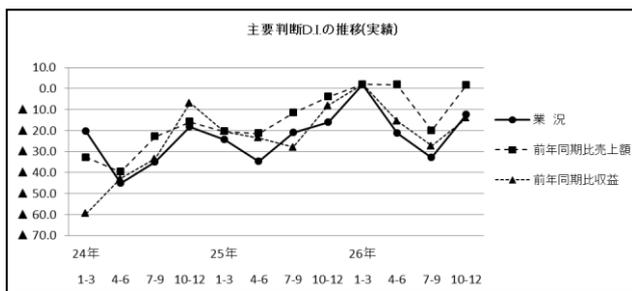
サービス業 回答企業数：57（前回：55）

- ・業況、売上額は前回（7～9月）調査時の見通し以上に改善。翌四半期については売上額、収益とも減少し、業況は悪化する見通し。

旅館等のサービス業は7～9月がオンシーズンであり、その前四半期比において売上額、収益のD.Iは若干低下したが、業況は20.2ポイントの改善となった。残業時間D.Iの増加、人手過不足D.Iの減少からは繁忙さが伺える。

翌四半期については売上額、収益とも悪化し、業況は若干悪化する見通しとなっている。

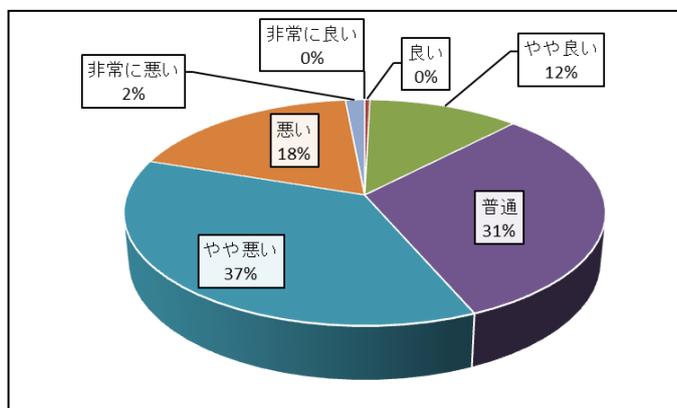
	2014年10～12月期実績	前四半期比	2015年1～3月期予想
業況D. I.	△ 12.5	20.2	△ 14.3
前年同期比売上額D. I.	1.8	21.8	-
前年同期比収益D. I.	△ 14.0	13.2	-
売上額D. I.	8.8	△ 0.3	△ 3.5
収益D. I.	3.5	△ 1.9	△ 8.8
料金価格D. I.	10.5	3.3	0.0
材料価格D. I.	36.8	4.1	21.1
資金繰りD. I.	△ 12.3	13.2	△ 10.5
借入金の難易度D. I.	△ 19.6	5.4	-
前期比残業時間D. I.	12.3	15.9	3.5
人手過不足D. I.	△ 17.5	△ 10.3	△ 17.5
現在の設備D. I.	△ 12.7	2.1	-
設備投資D. I.	15.8	△ 27.8	-
来期設備投資D. I.	19.3	△ 13.4	-



《特別調査の結果》 「2015年（平成27年）の経営見通し」

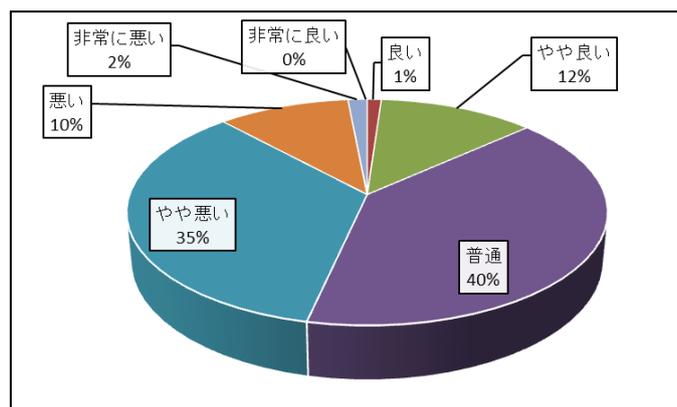
問1 2015年の日本の景気をどのように見通していますか。

非常に良い	0.0%
良い	0.4%
やや良い	11.8%
普通	31.3%
やや悪い	36.6%
非常に悪い	1.5%



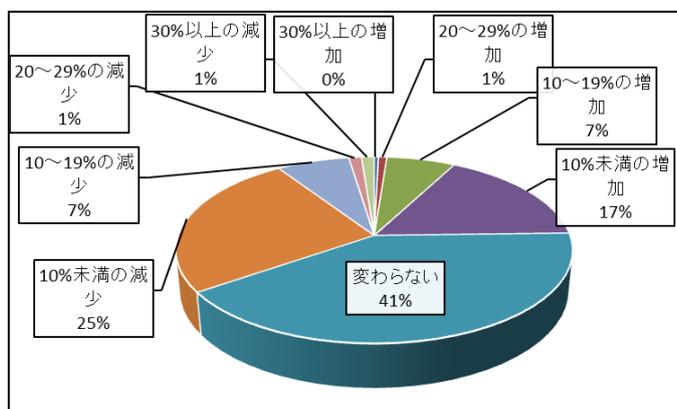
問2 2015年の自社の業況（景気）をどのように見通していますか。

非常に良い	0.0%
良い	1.1%
やや良い	12.2%
普通	40.1%
やや悪い	34.7%
非常に悪い	1.5%



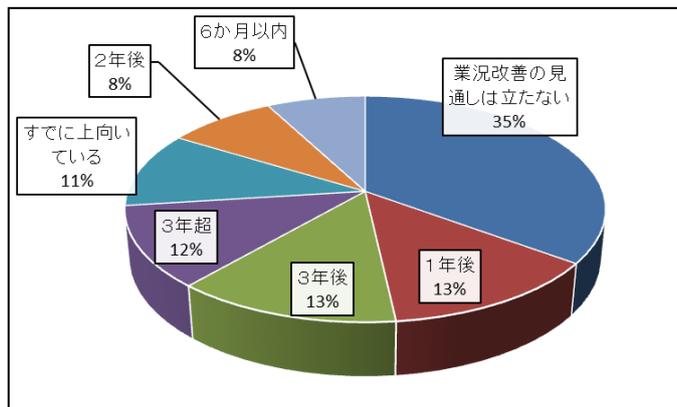
問3 2015年において売上額の伸び率は、2014年に比べておおよそどのくらいになると見通していますか。

30%以上の増加	0.4%
20～29%の増加	0.8%
10～19%の増加	6.5%
10%未満の増加	16.9%
変わらない	40.8%
10%未満の減少	25.4%
10～19%の減少	6.9%
20～29%の減少	1.2%
30%以上の減少	1.2%



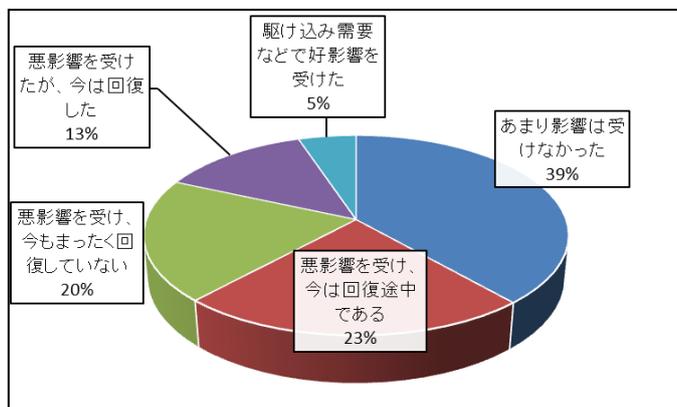
問4 自社の業況が上向き転換点をいつ頃になると見通していますか。

業況改善の見通しは立たない	35.1%
1年後	13.1%
3年後	13.1%
3年超	11.6%
すでに上向いている	10.8%
2年後	8.5%
6か月以内	7.7%



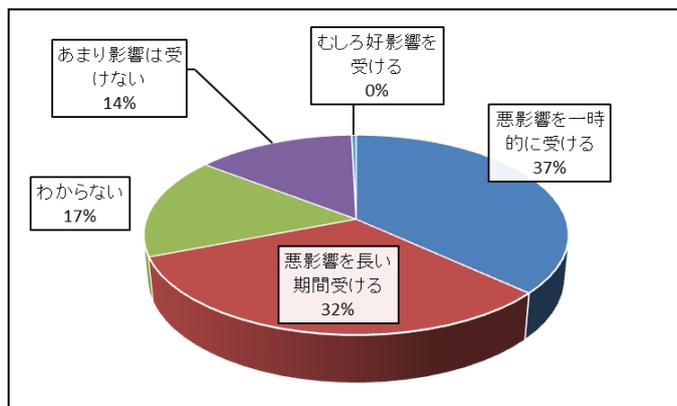
問5 消費税が8%に上がった際、経営にどのような影響を受けましたか。

あまり影響は受けなかった	38.5%
悪影響を受け、今は回復途中である	23.3%
悪影響を受け、今もまったく回復していない	19.8%
悪影響を受けたが、今は回復した	13.2%
駆け込み需要などで好影響を受けた	5.1%



消費税が10%に上がった場合、経営にどのような影響を受けるとが予想されますか。

悪影響を一時的に受ける	36.9%
悪影響を長い期間受ける	32.2%
わからない	16.5%
あまり影響は受けない	14.1%
むしろ好影響を受ける	0.4%



以上